

[www.jwing.net](http://www.jwing.net)  
[mail@jwing.net](mailto:mail@jwing.net)



## アメリカ特集2018

「ここだけのローカル体験」

音楽など、その土地ならではの体験を旅行素材に



GoUSA.jp



# 「Beyond The Gateway」を 引き続き訴求 新たなアメリカの魅力を提案 ブランドUSAの取り組み



GoUSA.jp

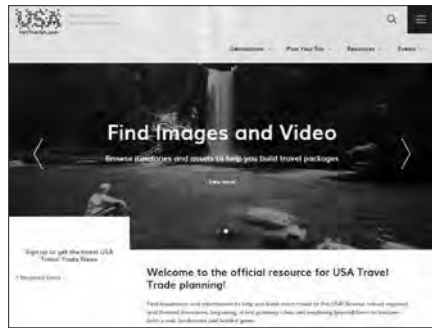
アメリカの観光プロモーション組織である「ブランドUSA」は、「Beyond The Gateway」を掲げ、日本からの直行便が飛ぶゲートウェイ都市から先の、まだまだあまり日本では知られていない新しいアメリカの魅力を訴求、旅行需要の促進に力を入れる。業界向けサイトでの情報発信や今年で2回目となるミッション、音楽をテーマにしたプロモーションなどもこうした取り組みのひとつだ。日本での活動について、ブランドUSA日本事務所トラベルトレード担当ディレクターの高久渉氏に話を伺った。

**業界向けウェブサイトを開設  
画像や映像、旅行プランナー、  
サンプル旅程などを網羅**  
traveltrade.visittheusa.com

ブランドUSAが新たに開設した旅行業界向けウェブサイト「ビジットUSAトラベルトレードウェブサイト」。以前は「IDとパスワードを用いた事前登録制だったが、より利用しやすいサイトとした」(高久氏)とのこと。新ウェブサイトはログインなしでアクセスが可能で、旅行会社にとって使い勝手の良いウェブサイトとなっている。

例えば、画像や動画をダウンロードできたり、またサンプル旅程をダウンロードできるほか、旅行プランナーという機能では、目的地、旅行期間、興味のあるアクティビティ(文化、美術館、野生動物、ショッピング、ビーチなど)を入力すると、お勧めの旅程(英語のみ)が作成されるので便利だ。

画像や動画は「紙のパンフレットやウェブサイトでの使用もOK」。またサンプル旅程も「利用しやすいと好評」だという。ウェブサイト自体は、現在英語での展開となっているが、サンプル旅程については日本語で用意。現在は22コースあり、今後はその数を増やしていく予定。ブランドUSAでは、サンプル旅程を組む専任のスタッフがおり、例えば野球を巡る旅など、「日本マーケットを意識した」内容も検討、今後は「ワイナリー巡りなど、テーマ性を持った旅程も増やしていく」考えだ。



ビジットUSAトラベルトレードウェブサイト  
traveltrade.visittheusa.com

**セールスに活用できるサンプル旅程  
現地オペレーターの検索も可能**

サンプル旅程について、高久氏は「例えば、団体旅行の担当者や地方の旅行会社のスタッフで、営業する際のたたき台として充分使って頂ける内容だ」とアピールする。日頃からアメリカの旅行情報を把握している企画担当者とは違い、オーガナイザーへの提案を行う団体旅行の営業マンは、多方面をカバーしなければならず、アメリカの旅行情報を得るためにはこうしたサンプル旅程の活用は好都合。「営業先のオーガナイザーも具体的に何をしたいか、何ができるかをイメージしづらい。サンプル旅程を使って、例えばシカゴやその近郊エリアでの過ごし方を提案していくことで、オーガナイザー側のニーズを掴むことができ、その先の具体的な旅程を組めるので、結果とし



サンプル旅程の一例

て受注にもつながる」というメリットがある。また「アメリカ合衆国の公式外国人旅行者誘致機関が提供する内容なので、説得力もあり、説明しやすい」という利点も。さらに「Receptive Tour Operators」をクリックすると、現地手配のオペレーターのリストを参照でき、具体的な手配の段階でも有用。「できるだけワンストップでできるようなウェブサイトを目指していきたい」という。今後はウェブサイト自体の多言語化も検討、「日本語化のプライオリティーは高い」とのことだ。

**今年は21団体が参加、ほぼ倍増に  
ブランドUSAセールスミッション**

今年で2回目の開催となった「ブランドUSAセールスミッション」。昨年の11団体から今年は倍近い21団体が参加。高久氏は「観光局だけでなく、エンターテインメント、ショッピング、現地オプショナルツアーやホテル、ツアーオペレーターなどの参加もあり、日本マーケットへの期待度の高さが伺われる」と語る。

セールスミッションでは、事前登録制のアポイント商談会に加え、全参加21団体による旅行業界向けのセミナー、さらにメディア向けのイベントが行われた。アポイントには25社以上の旅行会社が参加、旅行会社の企画担当者や団体担当者、OTAからも参加があった。

来年も引き続きセールスミッションを日本で開催する計画。時期は今年と同様、



ブランドUSA日本事務所 高久渉 トラベルトレード担当ディレクター

7月上旬となる予定だ。  
→セミナーについては10面で紹介

**音楽を切り口にアメリカを訴求  
IMAX第2弾、今秋放映  
「America's Musical Journey」**

今年度は音楽を切り口にプロモーションを進めるブランドUSA。今年2月にはアメリカでIMAX<sup>®</sup>シアター向け映画「America's Musical Journey(原題・邦題は未定)」のプレミア上映を行い、日本でも今秋を目処に公開する予定。

これはアメリカの大自然に焦点を当てた「アメリカ・ワイルド」に続く第2弾。アーティストのアロー・ブラック氏がシカゴ、マイアミ、メンフィス、ニューヨーク、ナッシュビル、ニューヨークなど、アメリカ各地の音楽にゆかりのある場所を訪ね、アメリカ音楽の魅力を紹介する内容で、名優モーガン・フリーマン氏がナレーションを務める。

またApple TV、Amazon Fireなどで視聴できる動画チャンネル「GoUSA TV」でも音楽の聖地を巡る番組など、音楽関連の動画コンテンツをアップ。ほかにもアメリカ全土各地で開催される音楽フェスティバルのイベントリストも作成した。

高久氏は「アメリカは、ジャズやロックンロール、ブルースなど、さまざまな音楽の発祥の地。本場の魅力を紹介することで、実際の渡航につなげていきたい」と強調。「America's Musical Journey」の日本での公開に合わせ、旅行業界向けのプレミア上映会を開催、一般消費者向けのPR展開も予定する。またIMAX<sup>®</sup>シアターだけでなく、「音響の優れた映画館での上映も検討している」とのことだ。音楽については次年度(2018年10月~2019年9月)でも主要テーマとして継続展開する。



「America's Musical Journey」ウェブサイト  
americasmusicaljourney.com  
映画の予告編(英語オリジナル版)を観ることもできる

**旅行会社の個別セミナーも  
パートナーと協力して推進**

引き続き、日本マーケットにおいては、パートナーであるアメリカの各観光局やサプライヤー、また日本旅行業協会(JATA)やビジットUSAコミティ、米国大使館商務部と連携を図りながらアメリカ旅行のプロモーション活動を展開していく。

具体的には、JATAとの共催による「深掘りセミナー」やFAMの実施、ビジットUSAコミティが主催する地方都市でのセミナーへの協力、ツーリズムEXPOに合わせた「アメリカツアープランニングコンテスト」などを今後も継続する。

また、旅行会社へ出向いてのインハウスセミナーにも力を入れる。販売店のスタッフや団体旅行担当、新入社員などを対象に実施するもので、セミナーには観光局やサプライヤーも参加。「旅行会社からのニーズは強く、必要性を感じている」とのことで、今後も依頼があれば積極的に実施していく意向だ。

**旅行者のニーズを捉える重要性  
旅行会社のコンサル機能を  
バックアップ**

日本からアメリカへの訪問者数は、2016年に357万7000人を記録。訪問者数、また消費金額共に国別で第2位の規模だ(隣国のカナダとメキシコを除く)。高久氏は「このうちアメリカ本土へは、約130万人が訪れており、ビジネス需要とレジャー需要の割合はおよそ半々。レジャー需要だけで年間65万人が訪れるというのは、ロングホールのマーケットで見れば大きな数字。日本は依然アメリカにとって重要なマーケットであることは変わらない」と強調する。

FIT化が急速に進むアメリカの旅行市場。そんな中、旅行会社はどのように対応していけばよいのか。高久氏は「これからは過渡期となる」と指摘する。「旅行会社は、例えば添乗員付きのツアーで、日本語によるきめ細かなサービスを提供するなど、今後は旅行者のニーズを捉えた対応が求められる。その中で重要となるのがコンサルティング能力。ブランドUSAは、旅行会社のコンサルティング能力をサポートしていきたい。売りやすい商品造成のお手伝いとなるべく、コンテンツの充実を図りたい」と意気込みを見せる。

トラベルトレードショー「IPW」について

も、来年はカリフォルニア州アナハイムでの開催。「エンジェルスの大谷選手の活躍で注目が集まるだけでなく、日系のオペレーターや現地法人が集まるロサンゼルスから近いため、日本からのバイヤー参加が増える」と期待している」とのこと。IPW後は例年同様、ビジットUSAコミティと、IPWを主催するUSTラベルアソシエーションが日本人バイヤー向けのセルフドライブを含めたポストFAMを企画している。



ブランドUSAセールスミッションの様子



# 旅行会社の商品造成をサポート JATA「ディスカバー・アメリカ・プロジェクト」の取り組み

日本旅行業協会 (JATA) では、新たに「アウトバウンド促進協議会 (JOTC)」を立ち上げ、海外旅行全般の需要促進に取り組んでいる。アメリカ方面については、2013年にスタートした専門部会「日本・アメリカ旅行促進部会 (ディスカバー・アメリカ・プロジェクト)」がそのままJOTCの北中南米部会の下部組織として移行し、引き続きブランドUSAやビジットUSAコミッティ、米国大使館商務部と連携を図りながら、旅行会社の商品造成へのサポートを中心にさまざまな活動を展開している。

## FAMとセミナー、IPWへの参加促進を軸に

ディスカバー・アメリカ・プロジェクトでは、5つのアクションプランを掲げ、会員である旅行会社への商品造成サポートを通じたアメリカ旅行需要の喚起に努める。なかでも力を入れるのが、FAMの実施と、「深掘りセミナー」の開催、そして世界最大級のトラベルトレードショー「IPW」への参加促進だ。

### 「ディスカバー・アメリカ・プロジェクト」 5つのアクションプラン

- ①ブランドUSAの広告PR活動と旅行会社の販促活動の連携強化
- ②旅行会社の啓蒙・教育プログラムの推進
- ③新規旅行商品の開発促進
- ④ツーリズムEXPOとIPWの相互参加増加に向けた取り組み
- ⑤定期的な会議を通じた日米旅行業界間の交流促進

FAMについては、現地への足となる航空会社と、現地手配を担当する観光局の協力を得て、ブランドUSAとの共催で実施。日本からの直行便が飛ぶゲートウェイ都市と、その先のエリアを体験する企画担当者向けの内容だ。

2018年は既に2本を実施。ひとつは2月のデルタ航空協賛で、ジョージア州アトランタを拠点にサウスカロライナ州チャールストンやジョージア州サバンナを訪問。6月にはアメリカン航空の協賛で、テキサス州ダラスからニューメキシコ州のアルバカーキーとサンタフェを訪ねた。今後も同様な



2018年2月に開催した「深掘りセミナー」の様子

形態のFAMを実施していく計画だ。

「深掘りセミナー」については、2月に東京で開催。ブランドUSAのプロモーションに合わせ、「音楽」を切り口に各観光局をはじめとするサプライヤーがそれぞれ音楽にまつわる観光素材を紹介した。またビジットUSAコミッティが主催する地方都市でのセミナーにおいても、集客面でサポート。今年は既に大阪と名古屋、福岡と札幌で開催した。

IPWへの参加については、「日本マーケットの存在価値を高める」(JATA海外旅行推進部 薦田祥司 副部長) 上でも重要な施策。2019年はカリフォルニア州アナハイム、2020年はネバダ州ラスベガスと、人気デスティネーションでの開催となるだ



JATA海外旅行推進部 薦田祥司 副部長

けに参加者増に期待が集まる。JATAとしても「参加メリットを打ち出すことで参加者を増やしていきたい」考えだ。

今年のIPWは、コロラド州デンバーで開催。会期中にはブランドUSAとの「日米観光合同ミーティング」を実施し、日本側からはJATA理事長の志村格理事長やディスカバー・アメリカ・プロジェクト部会長の古澤徹氏、薦田氏、ビジットUSAジャパン・コミッティや旅行会社の関係者が出席、アメリカ側との意見交換を行った。

## 参加しやすいFAM, セミナーに販売スタッフ向けも検討

今後の展開については、「より参加しやすいFAMやセミナーを検討していく」(薦田氏) という。特にセミナーについては、「実務に即した内容を求める意見もある」ことから、ブランドUSAとの連携を図りながらより良い形でのセミナーを目指す。

また、深掘りセミナーのような、旅行会社の商品企画担当者向けの内容とは別に、店舗の販売スタッフ向けのセミナーも今後可能性を探る。「新宿や渋谷など、リテラーが集中するエリアで開催することで、参加しやすくしたり、旅行会社ごとのセミナーや勉強会を開催したり、今後検討していきたい」意向だ。

## 「記憶に刻まれる風景30選」を選出商品造成のきっかけに

一方、JOTCの北中南米部会では、新たに「アメリカ大陸 記憶に刻まれる風景30選」を選定、9月のツーリズムEXPOジャパンでお披露目する予定だ。観光局や大使館等からのエントリーを募り、8月末までに30ヶ所の観光地に絞る。

選考にあたっては、JOTCの登録団体や旅行会社による投票を行う予定。あらかじめエントリーに際し、「メジャーなものよりも、これから売り出したい素材を提案してもらえよう」働きかけを行っている。

30選について、薦田氏は「8月下旬に選定し、旅行会社の企画担当者に先行して告知することで、2019年度上期の商品造成に取り込んでもらえるようにしたい」と語る。ツアーパンフレットでの掲載が可能な30選のロゴも合わせて用意する。

ツーリズムEXPOジャパンでは、30選の発表に合わせ、ヨーロッパなど、他エリアとの合同で30選を紹介する写真展を計画、業界内外に広くアピールする。また2019年上期商品の販売直後となる来年2〜3月を目処に、販売店スタッフ向けの30選の説明会を全国で実施していくことも検討する。

## JOTCのBtoCイベントへの参加も

このほか、JOTCでは、一般消費者向けの展開として、いくつかのBtoCイベントを計画、各観光局に対し、こうしたイベントへの参加を呼びかけている。例えば、8月30日には神奈川県藤沢で「旅フェスタ」を開催、また若年層の旅行需要喚起を意識した大学文化祭への参加(10月:実践女子大学、11月:東海大学)などを控えており、既にアメリカの観光局の参加が決定している。イベントではセミナーやワークショップが行われる予定だ。

### 週刊ウイングトラベル

## アメリカ特集 2018

「ここだけのローカル体験」  
音楽など、その土地ならではの体験を旅行素材に

WING Travel Weekly “USA Special 2018”

### CONTENTS

page 2 ブランドUSA  
Brand USA

3 日本旅行業協会 (JATA)  
JATA

4・5 ディズニー・ディスティネーション・インターナショナル  
Disney Destinations International

6・9 デルタ航空  
DELTA

7・8 観光局おすすめ  
音楽など、その土地ならではの「ローカル体験」  
Music/Local experiences in the U.S.

10 ブランドUSA  
Brand USA

11 ハーツレンタカー  
Hertz Rent A Car

12 ロサンゼルス観光局・ロサンゼルス国際空港  
Los Angeles Tourism & Convention Board / Los Angeles World Airports

13・14 アメリカン航空  
American Airlines



# カリフォルニアとフロリダに ピクサー映画の世界が新登場

カリフォルニア ディズニーランド・リゾート

Disneyland  
RESORT  
IN CALIFORNIA



「ピクサー・ピア」は、従来のパラダイス・ピア南側をリニューアルし、今年6月23日にオープンした。新たなディズニーのイメージで造られたウォーターフロントには、ピクサー映画のストーリーをテーマにした4つのゾーンがあり、それぞれテーマに沿った個性的なフードやショッピングも楽しむことができる。

1つ目のゾーンは、『Mr.インクレディブル』からインスピレーションを得た「インクレディブル・パーク」。ここの最大の目玉は、最新映画『インクレディブル・ファミリー』のスト



ーリーで構成されたライド系アトラクション「インクレディコースター」だ。全長約1.8キロメートルのこのコースターは、ディズニーランド・リゾート最長かつ最速。ストーリーを追いかけてながら、スリル満点のライドを楽しむことができる。

2つ目は、映画『トイ・ストーリー』をテーマにした「トイ・ストーリー・ボードウォーク」。大人気アトラクション「トイ・ストーリー・マニア!」を中心に広がり、テーマに沿ったダイニングも楽しむことができる。2019年には新アトラクション「ジェッシーのクリッター・カルーセル」も登場する予定だ。

3つ目は、2018年中に栈橋の西端にオ



## ワクワク感いっぱいの 「ピクサー・ピア」が誕生

大谷翔平選手がロサンゼルス・エンゼルスに入団したことで盛り上がりを見せるカリフォルニア・アナハイム。その本拠地エンゼル・スタジアム・オブ・アナハイムから車で10分ほどのところにある「カリフォルニアディズニーランド・リゾート」でも、「ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー・パーク」に「ピクサー・ピア」が新登場し、これまでにないピクサーの世界が体験できると話題を集めている。

ーブする予定の「インサイド・アウト・ヘッドクォーター」。映画『インサイド・ヘッド』をモチーフにした緑豊かなエリアで、“感情”をテーマに家族で楽しめるアトラクション「インサイド・アウト・エモーション・ワールウィンド」が登場する。

4つ目は、20世紀初頭のカリフォルニアのボードウォークにインスピレーションを受けた散歩道「ピクサー・プロムナード」。パラダ



イス・ベイの象徴だった巨大観覧車が「ピクサー・パル・ア・ラウンド」としてリニューアルされたほか、「ゲーム・オブ・ザ・ボードウォ



ーク」もリニューアルした。また、バンド・シェルスステージでは、ミュージカル・エンターテインメントやキャラクター・グリーティングなどが開催される。

このほか、「ピクサー・ピア」の入口にあったダイニング「アリエルズ・グロット」もスタイリッシュな「ランプライト・ラウンジ」にリニューアルオープン。ピクサーのアーティストによるアートやコレクターズグッズが飾られたなかで、カジュアルなガストロハブ料理やシグネチャーカクテルを楽しむことができる。

©Disney/Pixar

フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート

Walt Disney World  
Resort in Florida

## 家族みんなで楽しめる 「トイ・ストーリーランド」がオープン

フロリダ州オーランドにある「フロリダウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」は、山手線の内側1.6倍以上という広大な敷地に、テーマパーク4つ、ウォーターパーク2つ、直営ホテル25軒以上を展開する世界最大のディズニーリゾート。今年6月30日には、映画の世界が楽しめるテーマパーク「ディズニー・ハリウッド・スタジオ」に大ヒット映画『トイ・ストーリー』の世界を再現した「トイ・ストーリーランド」がオープンした。

「トイ・ストーリーランド」には、新作アトラクションが2つ。まず、犬のおもちゃのキャラクター「スリンキー」を主人公にした「スリンキー・ドッグ・ダッシュ」は、ファミリーで楽しめるライド・アトラクション。アンディの



裏庭を駆け抜けるというストーリー設定だ。もうひとつは、回転系ライド・アトラクションの「エイリアン・スワリング・ソーサー」。アンディがレストラン「ビザ・ブラネット」でもらったおもちゃセットをモチーフにデザイン

されており、多彩な照明と効果音による演出が遊び心をくすぐる。

また、人気のアトラクション「トイ・ストーリー・マニア!」も、エントランスを移設してリニューアル。野球のボールやクリームパイを使ったシューティングゲームを楽しむことができる。

このほか、「ディズニー・アニマルキングダム」では、映画『アバター』をテーマにした新テーマランドが昨年5月にオープンし、人気を集めている。開発チームにはジェームズ・キャメロン監督と映画制作会社ライトストーム・エンターテインメントも参画し、ディズニー・イマジニアと共同で美しい惑星パンドラの世界を精密に再現した。登場以来大人気のライド系アトラクション「アバター・フライト・オブ・パッセージ」、カス



©Disney/Pixar



ーに乗って熱帯雨林の世界を巡る「ナヴィ・リバー・ジャーニー」のほか、レストラン「サトゥーリー・キャンティーン」やギフトショップも備え、『アバター』の世界観をまるごと体験することが可能だ。

©Twentieth Century Fox Film Corporation



# アメリカのディズニーリゾートでは 2019年以降も新アトラクションが続々登場 注目の周年イベントも目白押し

進化が止まらないディズニー・マジック。2019年以降も新しいアトラクションが続々とオープンする予定であるほか、ミッキーマウススクリーン・デビュー90周年や「フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」開園50周年などさまざまな記念イベントも計画されている。カリフォルニアでも、フロリダでも、注目のプロジェクトが目白押し。今後の展開からますます目が離せない。

**2019年**

## 大人気『スター・ウォーズ』のテーマランドがついに誕生 カリフォルニアとフロリダの両パークに

2019年、「カリフォルニア ディズニーランド・リゾート」の「ディズニーランド・パーク」と「フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」の「ディズニー・ハリウッド・スタジオ」に待望の「スター・ウォーズ:ギャラクシーズ・エッジ」が誕生する。文字通り映画『スター・ウォーズ』の世界観を再現したテーマランドで、銀河のはずれにある惑星「Batuu(バトゥー)」でのファースト・オーダー軍と反乱軍との戦いというストーリー設定だ。

およそ14エーカーの敷地に2つのアトラクションも登場。ひとつは、スター・デストロイヤーのハンガーベイの中を疾走するライド系アトラクション。もうひとつは、ミレニアム・ファルコンを操縦するアトラクションだ。BB-8やチューバッカ、レックス、カイロ・レンなど人気のキャラクターにも遭遇することができる。

テーマランド内では、『スター・ウォーズ』の世界を彷彿とさせるフードが楽しめるほか、ショップもオープンする。また、「フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」では、テーマランドに隣接してスター・ウォーズのテーマホテルも開業する予定だ。



オープン、カリフォルニアが2019年夏、フロリダが2019年晩秋の予定。テーマランド内のレイアウトが異なるため、それぞれ違うスタイルで『スター・ウォーズ』の世界観を楽しめそうだ。



スター・ウォーズのテーマホテル

**2019年以降****注目のプロジェクト!!**

## ミッキーマウススクリーン・デビュー90周年、 フロリダ開業50周年、記念イベントにも注目

**2019年**

2018年11月18日は、ミッキーマウスの映画デビューから90周年。これを記念して、「フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」の「ディズニー・ハリウッド・スタジオ」には、ディズニーパーク初となるミッキーがテーマの新しいライド系アトラクション「ミッキーとミニーのランナウェイ・レイルウェイ」が登場するほか、2019年にかけてさまざまなセレブレーションイベントが開催される予定だ。



また、2019年に「フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」に周回ゴンドラ「ディズニー・スカイライナー」が開業する。「ディズニー・アート・オブ・アニメーション・リゾート」と「ディズニー・ポップ・センチュリー・リゾート」のほか、エプコット近くに2019年にオープンする「ディズニー・リビエラ・リゾート」にも停車する予定で、ディズニー・ハリウッド・スタジオとエプコットへの移動がますます便利になる。

**2020年**

2020年には、「カリフォルニア ディズニーランド・リゾート」の「ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー・パーク」にマーベルヒーローのテーマランドが新登場する。

**2021～2023年**

このほか、ディズニー・クルーズラインも2021年から23年にかけて毎年1隻ずつ新しいクルーズ船を就航させる。

**2021年**

2021年は、「フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート」が開業50周年。これを記念して、「マジックキングダム・パーク」に『トロン』のアトラクション、「エプコット」に『レミーのおいしいレストラン』のアトラクションと『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』のアトラクションがそれぞれオープンする計画だ。



『トロン・レガシー』がテーマのアトラクション



『レミーのおいしいレストラン』、『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』がテーマのアトラクション



# サービス、ネットワーク共に充実 デルタ航空で行くアメリカ



## Service

### 新プロダクトを日米路線に続々導入



新プロダクトを導入するA350-900型機

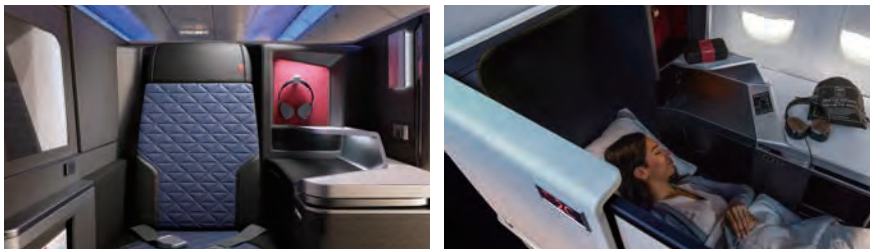
2017年10より成田ーデトロイト線に導入を開始したデルタ航空の新プロダクト。2018年11月からは、新機材エアバスA350-900型機と、ボーイング777-200ER型機の改装完了に伴い、その導入路線が拡大する。

#### 新プロダクト導入路線

| 路線               | 機材        | 運航開始日(日本発)  |
|------------------|-----------|-------------|
| 羽田ーミネアポリス/セントポール | 777-200ER | 2018年11月17日 |
| 成田ーアトランタ         | 777-200ER | 2019年3月2日   |
| 成田ーシアトル          | A350-900  | 2019年3月2日   |
| 羽田ーロサンゼルス        | A350-900  | 2019年4月1日   |

#### 新プロダクト ①

### 個室タイプのビジネスクラス デルタ・ワン スイート



スライド式ドアで仕切られたプライバシーな空間。使いやすさに配慮した個人用収納スペースが充実。最新の機内エンターテインメントシステムと高級感溢れる内装で、ほかにはないビジネスクラス体験を提供



美しいデザインのAlessiの食器で提供される和洋選べるコース料理。マスターソムリエのアンドレア・ロビンソン氏セレクトのワインと共に



ウェスティンホテル開発の機内用Westin Heavenly®の寝具(大きめの掛け布団やダウンタッチピロー)

- 中央の2席の間にはプライバシーを保つための可動式仕切り
- パソコンやヘッドホン、靴などを収納できる専用スペースと、形状記憶機能付きクッション
- TUMIのケースにキールズのスキンケアなどが入ったアメニティキット
- 米国航空会社最大の18インチの高解像度個人用モニター、ノイズキャンセリング機能付きLSTN製ヘッドホン、ユニバーサル電源と高性能USBポート

### すべてのクラスでミシュラン2つ星シェフ監修の機内食を



機内食の一例(デルタ・プレミアムセレクト)

デルタ航空は、日本ー米本土／ハワイ路線のすべてのクラスで、ミシュラン2つ星和食店「一汁二菜うえの」(大阪府)の上野法男シェフ考案／監修の機内食メニューを提供している。なお、和食は数に限りがあるので、出発24時間前までにdelta.comもしくはデルタ航空予約センターでの事前予約がおすすめです。

### 最新の機内食と機内映画をチェック!

#### ● 旅行会社向けウェブサイト「デルタ・プロフェッショナル」

旅行会社に必要な情報をワンストップで提供する新しい日本語サイト。最新の機内食や日本語で楽しめる機内映画を随時アップデート、ぜひニュース配信登録を。

[pro.delta.com/jp](http://pro.delta.com/jp)

#### 新プロダクト ②

### ワンランク上のプレミアムエコノミー デルタ・プレミアムセレクト



シートピッチは最大38インチ(約96.5センチ)、シート幅は最大19インチ(約48.3センチ)、リクライニングは最大7インチ(約17.8センチ)。可動式のレッグレストとヘッドレストも完備したゆったりとくつろげるシート



TUMIのケースにMalin+Goetzのスキンケア製品や靴下、アイマスク、耳栓などが入ったアメニティキット



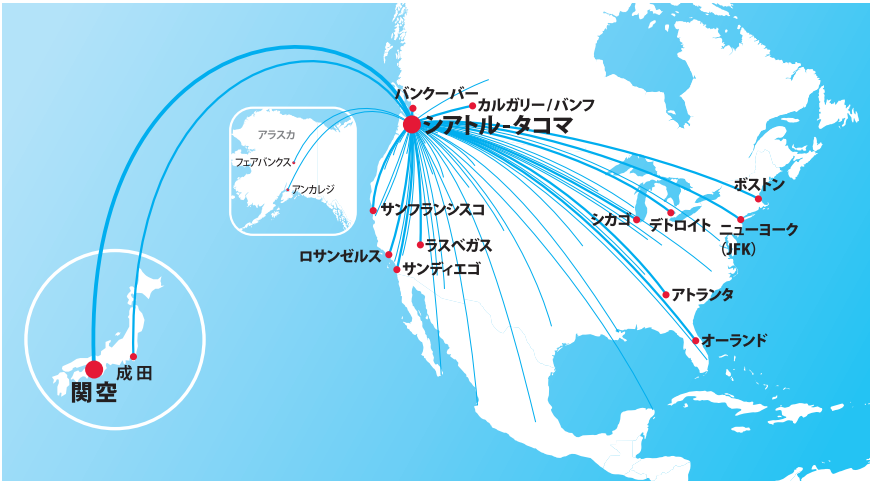
ビジネスクラス同様、ノイズキャンセリング機能付きLSTN製ヘッドフォンを採用

- ウェスティンホテル開発の機内用Westin Heavenly®のブランケットと枕
- 離陸前のドリンクサービスと、Alessiの食器で提供される季節ごとに変わる機内食
- クラス最大級13.3インチの高解像度個人用モニターと、ユニバーサル電源
- 優先チェックインや優先保安検査(一部空港)、優先搭乗、預け入れ手荷物の優先取扱など、「スカイ・プライオリティ」サービス

## Network

### 関西ーシアトル線運航スタート シアトルから全米各地へ

2019年4月より運航を開始する関西ーシアトル線(関西発は4月2日から、シアトル発は4月1日から)。毎日1便の運航で、使用機材はボーイング767-300ER型機。ビジネスクラス「デルタ・ワン」のフルフラットベッドシートが25席、足もとの広い「デルタ・コンフォートプラス」が29席、エコノミークラス「メインキャビン」が171席の計225席の仕様だ。



#### 関西ーシアトル線 運航スケジュール\*

| 便名    | 出発 | 出発時間  | 到着時間  | 到着   | 便名    | 出発   | 出発時間  | 到着時間          | 到着 |
|-------|----|-------|-------|------|-------|------|-------|---------------|----|
| DL182 | 関西 | 16:00 | 10:00 | シアトル | DL183 | シアトル | 12:00 | 15:25<br>(翌日) | 関西 |

\* 2018年7月現在の2019年4月のスケジュールです。スケジュールは予告なく変更になる場合があります。



シアトル-タコマ国際空港「デルタ スカイクラブ」ラウンジ

デルタ航空は現在、関西ーホノルル線を毎日1便運航、シアトル線の運航開始で、関西空港発は毎日2便となる。またシアトルへは、成田ーシアトル線も毎日1便運航。東日本と西日本からシアトルへのフライトが共にデイリー化される。またシアトルは、デルタ航空のハブとして路線が拡大中。2018年7月のピーク日のシアトルからの出発便は54都市174便と充実。アメリカ、カナダ各地へアクセス可能だ。

### 大韓航空とのジョイントベンチャーを展開

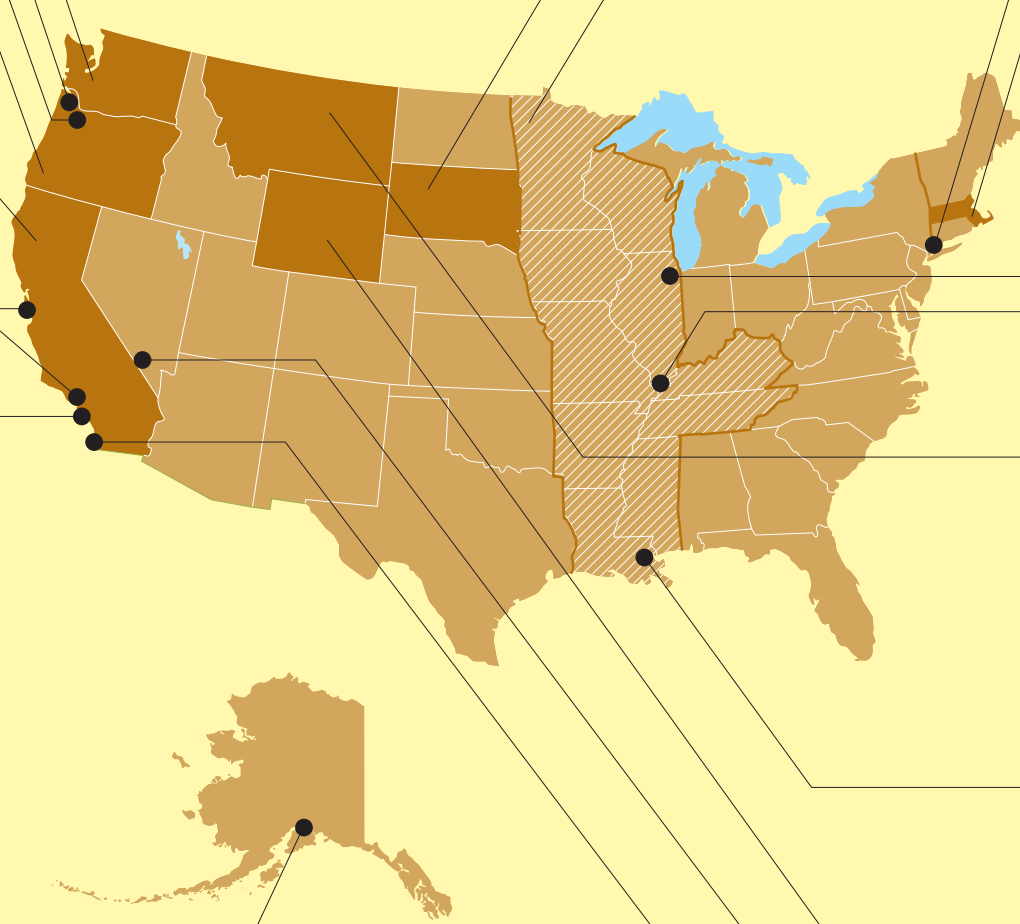
デルタ航空と大韓航空は、太平洋路線におけるジョイントベンチャー(共同事業)を展開している。2018年6月6日からは、デルタ航空が運航する日本発アメリカ行きのフライトがコードシェア対象に拡大。またソウル仁川国際空港では、両社最新のターミナル2を発着、乗り継ぎの利便性が向上した。



## 観光局おすすめ

音楽など、  
その土地ならではの  
「ローカル体験」

バラエティーあふれるアメリカ。各地を訪ねると、その土地ならではのユニークな表情に出会うこともしばしば。そんな個性豊かなアメリカの魅力のひとつが音楽。アメリカは、ジャズやブルース、ロックンロールなど、日本でも馴染みのある音楽の「ふるさと」でもある。そんなアメリカの各地の音楽をはじめとする、その土地ならではの「ローカル体験」を集めてみた。どれも観光局が旅行会社の企画及び販売担当者におすすめする、とびっきりの体験ばかりだ。



**ポートランド観光協会**  
www.travelportland.com/lang/japanese

**ポートランドのレコード・カルチャー**

BGMにレコードをかけるショップやカフェが多く、レコードショップでは、ビンテージから新しいヨーロッパの輸入盤まで幅広く取り揃える。レコードだけでなく、ローカルのデザイナーの可愛いアクセサリーや雑貨を扱っているショップも。

**オレゴン州観光局**  
traveloregon.visittheusa.com/ja-jp/traveloregonusa

**ブリット・ミュージック・フェスティバル**

夏の時期、オレゴン州南部のジャクソンビルで開催される野外音楽フェス。クラシック、ジャズ、ブルース、ポップ、カントリーなど、さまざまな音楽が楽しめ、パインツリーに囲まれた屋外で開催されるフェスはオレゴンならではの大自然も満喫できる。

**サンフランシスコ観光協会**  
jp.sfrtravel.com

**ハードリー・ストリクトリー・ブルグラス**

ゴールデン・ゲート・パークで毎年3日間開催される無料コンサート。たくさんの音楽ジャンルを楽しめる。ランチを持参し、広々とした美しい公園で秋を感じながら、音楽にひたる休日過ごすのはいかが？

**ロサンゼルス観光局**  
jp.discoverlosangeles.com

**ロサンゼルス・フィルハーモニック100周年**

2019年の創立100周年を前に、今年9/30に終日無料の音楽フェスティバル「LAPhil 100」を開催。ウォルトディズニーコンサートホールからハリウッドボウルまでの約12kmが歩行者天国となり、さまざまな音楽イベントを無料で体験できる。

**ハワイ州観光局**  
www.alhawaii.jp

**心に響くハワイのチャント(詠唱)**

ハワイではいろいろな場所に耳にするチャントは、いつ聞いても、心を穏やかにしてくれる。文字を持たなかったハワイアンが、口承で文化を伝える手段として受け継がれている「語り物」は、言葉がわからなくても、感動する。

**マリアナ政府観光局**  
japan.mymarianas.com

**ガラバンストリートマーケット**

毎週木曜日の夜に開催されるナイトマーケット。サイパン島のグルメブースがずらりと立ち並び、ローカルな食べ物も揃っている。ステージでは、チャモロダンスやカカロニアンダンス等のショーが披露され、伝統の音楽を聴きながらローカル気分になれる。

**シアトル・ワシントン州観光事務所**  
www.visitseattle.jp

**アップストリーム・ミュージック・フェスト**

シアトルで毎年夏のはじめに開催される音楽フェス。2017年にスタート、北西部出身のアーティストが多数出演する。センチュリーリンク・フィールドやアクシデンタルパーク、パイオニアスクエアなどに特設ステージが登場し、ライブが開催される。

**トゥアラティンバレー・ワシントン郡観光局(オレゴン州)**  
tualatinvalley.org

**ノースウェスト・ストリング・サミット**

ノースプレーンズの町で毎年7月に4日間にわたり開催され、ブルグラスのライブ演奏が楽しめる。ワインの産地として知られるトゥアラティンバレーでは、毎年夏にワイナリーやファーマーズマーケット、ファームで音楽イベントが頻繁に行われる。

**カリフォルニア観光局**  
www.visitcalifornia.jp

**コーチエラバレー・ミュージック&アートフェスティバル**

米国最大の音楽イベントのひとつ。パームスプリングス近郊で開催され、ほぼすべてのジャンルの音楽が楽しめる。素晴らしい料理も魅力的。会場のキャンプ場には各種ショップ、体験型アートスタジオ、ファーマーズマーケットなどもある。

**オレンジカウンティ観光局**  
www.visittheoc.com

**OCフェア**

子どもから大人まで楽しめるアメリカ版夏祭りコスタ・メサで毎年7〜8月に行われるコンサートは、オフスプリング、ノー・ダウト、シグナ・レイなど数多くのミュージシャンを輩出した。正統派ロックからメキシカンミュージックまで幅広いライブが楽しめる。

**アンカレジ観光局**  
www.anchorage.net

**アラスカの先住民の伝統パフォーマンス**

多様なアラスカ先住民の文化を紹介するアラスカ民族文化センター。日に数回行われるステージパフォーマンスでは、音楽とダンスを通してアラスカネイティブの伝統文化に触れることができる。アンカレジ中心街からは車で約15分。

**グアム政府観光局**  
www.visitguam.jp

**シェラトン・ベイサイドBBQ**

シェラトン・ラグーナ・グアム・リゾートでグアム独自のチャモロダンスを鑑賞しながら、絶景の夕日とグアム名物のBBQを味わえる。迫力ある古代チャモロダンスと、ラテン系のテンポのスペイン風チャモロダンスの両方を鑑賞することができる。

**サウスダコタ州(サウスダコタ・ワイオミング州政府観光局)**  
www.uswest.tv/southdakota

**西部開拓時代のウエスタンディナーショー**

ラピッドシティ郊外のフォートヘイズ・チャックワゴンには西部開拓時代を彷彿とさせるミニテーマパーク。アルミのお皿にサーブされた当時そのままのカウボーイ料理とともに味わうカントリーミュージックは大人気!

**ニューヨーク市観光局**  
www.nycgo.com

**フィルハーモニックの演奏者と交流できるラグジュアリー体験**

フィルハーモニックの演奏者と演奏前にカクテルパーティーで交流するなど、日常では体験できない付加価値の高い「ラグジュアリーな体験」ができる商品造成のプランを提供するなど、ほかゲストエクスperiencesとは違った取り組みを積極的に展開。

**シカゴ観光局**  
www.choosechicago.com/jp

**シカゴジャズフェスティバル**

毎年、レイバー・デー(Labor Day)前の週末に開催される本場のジャズを無料で楽しめる音楽イベント。「ザ・ビーン」のアートワークでも有名なミレニアムパークにて開催され、シカゴの夜景を堪能しながら、ジャズを楽しむことができる。

**モンタナ州政府駐日代表事務所**  
www.bigskyjapan.com

**ネイティブ・アメリカンのお祭りパウワウ**

州内には12のネイティブ・アメリカンの部族があり、夏季は各地で「パウワウ」と呼ばれる各部族のお祭りが開催される。太鼓の響きに合わせ、独特のリズムで踊り続ける輪に、見学者も参加できる場合もあり、旅行中に参加できればラッキー!

**ワイオミング州(サウスダコタ・ワイオミング州政府観光局)**  
www.visitwyoming.jp

**伝統のカウボーイミュージック**

ジャクソン近郊のバー「Jチャックワゴン」で行われる地元出身グループのカウボーイミュージックショー。伝統的なカウボーイ料理チャックワゴンを食べながらのショーは、カウボーイの州・ワイオミングならではの体験!

**サンディエゴ観光局**  
www.sandiego.org/plan/international-travelers/japan

**メキシカンレストランで陽気なラテンミュージックを**

メキシコのティファナとの国境を接するサンディエゴは、メキシカンフードが有名!メキシカンレストランも多く、人気No.1の「カフェ・コヨーテ」などでは、メキシカンの陽気な音楽が流れ、カラフルな絵がペイントされていて、とにかく明るい雰囲気。

**ミシシッピ・リバー・カントリーUSA**  
www.mrcusa.jp

**プリンスの聖地「ペイズリー・パーク」**

ミネソタ州ミネapolis生まれのアーティスト、プリンスの自宅兼スタジオが一般公開されている。ほかにもステージ衣装やギターを展示するモール・オブ・アメリカ内のハードロックカフェや、ライブハウス「ファースト・アベニュー」など、ゆかりの地が点在。

**マサチューセッツ州政府観光局**  
www.massvacation.jp

**名門バークリー音楽大学でのライブ**

ボストンにあるジャズ、コンテンポラリーミュージックの名門バークリー音楽大学。渡辺貞夫や小曽根真、上原ひろみなど、多くの日本人卒業生が国内で活躍する。学校内には学生によるライブもあり、無料で聴くことができる。

**メンフィス観光局**  
www.memphistravel.jp

**生まれ変わったグレースランド**

大改修工事で拡張した敷地には、エルビス・プレスリーの功績や愛車、プライベートジェットを展示する博物館や、ショートフィルムが上映される映画館、一足先にオープンした豪華リゾートホテル「ザグズハウス・アット・グレースランド」がある。

**ニューオーリンズ観光局(ニューオーリンズ&カンパニー)**  
www.neworleans.com

**本物の音楽好きが集まるフレンチメンストリート**

観光客でごった返すフレンチクォーターの中心バーボンストリートに対して、フレンチメンストリートは音楽にこだわりのあるライブハウスやバーが多く、音楽通の観光客や地元の人々が集まる場所。歩きながらお気に入りの場所を探してみよう。

**ラスベガス観光局**  
www.visitlasvegas.jp

**Life Is Beautiful Music & Art Festival**

毎年9月にダウントウンで行われる音楽、アート、料理を融合した一大フェス。世界的に有名なアーティストからインディーズバンドまで数々のアーティストが集結、街全体がフェスの舞台と化し、ラスベガスの文化を象徴したイベントだ。



# 翔る、全米へ

日本陸上界のエース、大迫傑選手とともに飛び立とう。  
デルタ航空でアメリカ大陸290以上の都市へ。



KEEP CLIMBING



DELTA





## ブランドUSA Brand USA

アメリカ特集 2018

# ブランドUSAセールスミッション開催 今年は倍増の21団体が参加

ブランドUSAは、昨年に続き2回目となる「ブランドUSAジャパンセールスミッション2018」を開催した。7月9～10日の期間中、全米各地より21団体が参加、昨年の11団体を大きく上回った。7月10日には旅行会社対象のセミナーを実施、全参加21団体によるプレゼンテーションが行われた。ここではその内容を紹介したい。

## アラモレンタカー

## 保有台数ナンバーワン 好きな車を選べる「アラモセレクト」

系列のナショナル、エンタープライズを含め、全米ナンバーワンの保有台数を誇るアラモレンタカー。顧客満足度でも高い評価を獲得、「アラモセレクト」は、同一車種グループの中から好きな車を選べる嬉しいサービス。またフロリダ州やカリフォルニア州内、カリフォルニア州とネバダ州、カリフォルニア州とアリゾナ州であれば乗り捨ても可能で、例えば、ロサンゼルスからラスベガスをレンタカーで、といった利用も可能。レンタカーはコミッション率が高いので、旅行会社の収益にもなる。



谷川秀夫氏、アラモレンタカー代表取締役

## シカゴ観光局

## まち歩きに最適 美術や食、建築が魅力

人口で全米第3位のシカゴは、アメリカ中部の拠点都市。日本から1日5本のフライトが飛び、中心部は基盤の目のように道路が張り巡らされているので、まち歩きでもあまり迷うことがない。全米3大美術館に数えられるシカゴ美術館などの芸術、スタッフピザやホットドックなどのグルメ、さらに日本でも活躍した建築家フランク・ロイド・ライトゆかりの地をめぐるトレイルなどがある。



左)ブライアン・セド、グローバルデベロップメント担当、右)ナオミ・ハットリ、グローバルデベロップメントディレクター

## シルク・ドゥ・ソレイユ

## ラスベガスで8つの常設ショー 進出25周年

進出25周年を迎えたラスベガスで現在8つの常設ショーを展開。迫力満点のアクロバティックなショーや、日本人にも人気のマイケル・ジャクソンやビートルズなど、音楽を題材にしたショーで、英語が分からなくても楽しめるのが魅力。VIPパッケージでは、バックステージの見学やパフォーマーとの写真撮影、VIP BOXでの食事やワインを楽しみながらの鑑賞など、充実の内容だ。



ジェネル・ジャックス、インターナショナルマーケティング&amp;PRマネージャー

## ラスベガス観光局

## ホテルの計画が続々 2020年までに7368室が追加

マルチに楽しめるデスティネーション、ラスベガス。2017年の訪問者数は前年比1.2%増の4270万人で、うち約2割がコンベンション利用だ。日本人のシェアは3.9%で、アジアではナンバーワンの規模を誇る。ホテル客室は現在約15万室。今後2020年までに7368室が追加される予定で、今年は旧モンテカルロがパークMGMとノードラスベガスにリニューアル、2019年にはウインの新タワー、2020年にはアジアをテーマにしたリゾートワールド・ラスベガスがオープン予定。2020年にはNFLのオークランド・レイダースがラスベガスにホームを移すなど、スポーツも新たなラスベガスの楽しみのひとつに。



加藤雅代、トラベルトレードマネージャー

## イリノイ・グレート・リバー・ロード観光局

## ミシシッピ川沿いの景勝ルート 可愛い町も

世界有数の大河、ミシシッピ川沿いの景勝ルートには、見どころがいっぱい。なかでもイリノイ州ガリーナは、アメリカの可愛い町に選ばれた人気のデスティネーション。シカゴから車で約2時間半、1800年代の建物が並び、ワイナリーや地産地消のレストラン、ゴルフ場を併設したスパリゾートなどがある。乗馬や気球、ジップラインなど、アウトドア・アクティビティも充実。世界最大の農業機器メーカー、ジョンディアの見学施設があるモリーン、世界遺産カホキア墳丘群州立史跡のあるアルトンも。



渋谷菜々子氏、観光局代表

## マサチューセッツ州政府観光局

## 2020年は「プリマス上陸400年」でイベント

2020年は、新天地を求め、イギリスからの清教徒たちが同州プリマスに到着してから400年の記念すべき年となる。「プリマス400」として、2019年夏以降2020年にかけて、さまざまなイベントが開催される予定。またプリマスを含むボストン近郊大西洋沿岸の都市を結ぶ「ホエール・ウォッチング・トレイル」が登場。かつての捕鯨関連施設を訪ねたり、ジョン・ワズ・ワズが住んだフェアヘブンを散策したりなど、見どころが充実。もちろんホエール・ウォッチングも体験可能。また4月末から8月にかけては各地でフラワーフェスティバルが開かれ、その締めくくりとして紅葉が楽しめる。



平尾尚子、マーケティングコンサルタント

## オレゴン州観光局

## ポートランドは自転車 足を伸ばすと大自然も

地球上に存在するあらゆる地形が州内に存在するオレゴン州。全米で「住みたい町」ナンバーワンに選ばれるポートランドは、シェアバイクが定着して、自転車ですりまわるのがオススメ。フードコートや100軒以上の地ビール醸造所、オレゴン州のワインやコーヒ、紅葉、ドーナツやアイスなどのスイーツ、さらにDIY(ものづくり)体験など、豊富な体験素材が揃う。またコロニア渓谷やマウント・フッド、オレゴン・コースト、ワイナリーが集まるウィラメット・バレーなど、少し足を伸ばしただけで、豊かな大自然も体験できる。



左)ティビボ・ベニントン、右)グレッグ・エックハート、右)グレッグ・エックハート、右)グレッグ・エックハート

## テュアラティン・バレー・ワシントン郡観光局

## ポートランドの西 ワイナリー訪問やアウトドアを

ポートランドの西に隣接する同地域。ポートランド空港からは、ライトレールを使えば約1時間でアクセスできる。ワイナリーが集まるウィラメット・バレーの北端で、同地域には34軒のワイナリーがあり、ワイナリー巡りが楽しめる。またホテルも55軒あり、ポートランドと比べ、リーズナブルに宿泊するのが魅力。ここを拠点にポートランド、オレゴン州の観光を楽しむことができる。



キャロリン・マコーミック、プレジデント&amp;CEO

## フィラデルフィア観光局

## アメリカ合衆国発祥の地 ホテル建設も盛ん

アメリカ発祥の地として、世界遺産にも指定されている独立記念館や、映画ロッキーのワンシーンにも使われたフィラデルフィア美術館など、歴史や芸術が楽しめるフィラデルフィア。日本からの直行便が飛ぶニューヨークやワシントンDCからも鉄道で1時間半～2時間でアクセスできるアメリカ東海岸に位置する主要都市のひとつだ。食やショッピングも楽しめ、衣類や靴には税金がかからないのも魅力。2019年までにはホテル客室が1万2000室増える予定で、Wホテルやエレメント、フォーシーズンズなど、新しいホテルのオープンを控えている。



ジェフリー・ヤウ、インターナショナルツーリズム・セールス・マネージャー

## タックスフリー・ショッピング・テキサス

## テキサス州で賢くお買い物 税金還付が簡単に

テキサス州には税金の還付制度があり、お得に買い物ができる。対象は州内の6500もの店舗。ダラス空港に近接するグレープバイン・ミルズや、ダラス・ヒューストンの主要なショッピングセンター、高級ブランドが集まるショッピングモール、アウトレットなども対象に含まれる。手続きは簡単。空港など17箇所にある還付手続きセンターで手続きすれば、現金または小切手、PayPalで還付金を受け取ることができる。あらかじめウェブサイト(www.TaxFreeShopping.com)で登録しておく、より早く審査を受けることが可能だ。



モーガン・テイラー、マーケティング・コミュニケーションズ・ディレクター

## シアトル・ワシントン州観光事務所

## 歩いてまわれるシアトル 企業訪問も人気

近年注目を集めているのが、企業訪問。アマゾンやスターバックス、コストコ、マイクロソフト、ボーイングなど、シアトルとその周辺エリアには、本社が集まり、そのいくつかはビジターセンターなど、無料の開放施設を有している。また歩いてのまち歩きが楽しいシアトル。人気の観光スポットで、全米最古100年以上の歴史を誇る市場「パイク・プレイス・マーケット」は、昨年6月に拡張エリアがオープン。スターバックスの1号店や、フィッシュマーケットで有名な同市場、最近では「食べ歩きツアー」が人気だ。



渋谷菜々子氏、日本事務所トラベルトレードマネージャー

## ユニバーサル・スタジオ・ハリウッド

## 来年にジュラシック・パークの 新アトラクションがオープン

映画制作現場を体験する、ここだけの「スタジオ・ツアー」をはじめ、「ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリウッド」など、人気のアトラクションが集まる。今年6月には「カンフー・パンダー・エンペラーズ・クエスト」が登場、来年にはジュラシック・パークの新アトラクションが登場する予定だ(現在のジュラシック・パーク・ザ・ライドは9月3日まで)。またおすすめの「VIPエクスペリエンス」。無制限の優先入場、一般公開していないエリアへの入場や特別ツアーなど、まさに特別感を演出できる内容だ。



森本笑子、ユニバーサル・スタジオ・ハリウッドセールス担当

## ワイオミング州観光局

## イエローストーン国立公園など、 大自然を満喫

世界で最初の国立公園として知られるイエローストーン国立公園をはじめ、グランド・ティートン国立公園、デビルズ・タワー国立公園などの3つが同州観光のハイライト。広大な空が広がる同州。熊やムース、バイソンなどの野生動物を鑑賞したり、豊富なアウトドア・アクティビティを体験したり、アメリカならではの大自然を満喫できる。



ジム・ウレン・バーグ、グローバルセールスマネージャー

## ブランドUSA

## 旅行業界向けに3つの施策 ウェブサイト、動画チャンネル、IMAX映画

ブランドUSAでは、旅行業界向けの販促ツールとして、ウェブサイトを開発。モデル日程の紹介や画像、動画などを用意、商品造成に役立つ内容となっている。加えてクレジットフリーの高解像度画像を提供するオンラインライブラリーも設け、こちらは事前登録制で利用可能だ。また「アメリカ・ワイルド」に続くIMAX映画「America's Musical Journey」を制作。音楽を切り口にアメリカの魅力を訴求した内容で、日本でも今秋に公開予定だ。さらにアメリカに関する動画コンテンツを集約したTVチャンネル「GoUSA TV」を開発。こちらはRoku、Apple TV、Amazon Fireを通じて視聴できる。



スザンナ・シヤバード、グローバル・ヘッド開発担当シニア・マネージャー

## ザ・グランドホテル・サニーベイル&amp;ザ・クパチーノ・ホテル

## シリコンバレーに2つのホテル サンフランシスコへも便利

グーグル本社の隣に建つ104室のザ・グランドホテル・サニーベイルは、新たに51室を増室予定。シリコンバレーならではのロボットによるルームサービス。またアップル本社の目の前に建つのが128室のザ・クパチーノ・ホテル。どちらも朝食やWi-Fiを無料でサービス。ミーティングスペースも完備し、大型バスの対応も可能。サンフランシスコ国際空港へ車で20分と、サンフランシスコの拠点としても利用できる。



クロード・オボノ、エリア・ジェネラル・マネージャー

## グレープバイン観光コンベンションビューロー

## ダラス空港のお膝元 ワインやショッピングが楽しめる

テキサス州グレープバインは、日本から直行便が飛ぶダラス／フォートワース国際空港があり、毎時1本のシャトルバスを使って空港から市内へアクセス可能だ。グレープバイン・ミルズは、東京ドームの2倍の広さを誇るショッピングセンターで、タックスフリーショッピングが楽しめる。テキサス最大1860室のゲイロード・テキサンなど、ホテルも充実。ワイナリーや地ビール醸造所、蒸気機関車やワインフェスティバルなどのイベントも盛り沢山。



タマー・アッティア、国際観光部マネージャー

## マーベリック・ヘリコプター&amp;エアラインズ

## ラスベガスで遊覧飛行 マウイ島、カウアイ島でも

7名乗りのヘリコプター、エコスターで安全快適な遊覧飛行が楽しめる。ラスベガスで唯一夜の遊覧飛行を運航、ネオン輝くストリップのダイナミックな夜景はフォトジェニックだ。グランドキャニオン国立公園をベースに、迫力の絶景を間近にできるフライトも運航。ほかにもハワイのマウイ島、今年の9月からは新たにカウアイ島での遊覧飛行もスタートする予定だ。



マイナー・グエラ、レジャー・セールス・ヴァイス・プレジデント

## ツアー アメリカ社

## 視察やMICE、教育旅行全般を取扱

オペレーターとして、企業旅行や視察、MICE、教育旅行を中心に手配を行う同社。ユニークで斬新なプランや豊富な経験値、現地での厚いサポートやコネクションで最善のプランを提供、他社とは違ったオペレーション能力に定評がある。これまでもスポーツイベントやコンベンション、学校交流などを手がけ、またホテルのオープンなど、常に最新の現地情報を把握、提供している。



田中映子、日本事務所ディレクター

## フロリダ州観光局

## オーランドやマイアミ、アメリカ最古の都市も

昨年同州への訪問者数は、1億1650万人。うち1億人超がアメリカ国内からで、日本は外国の国別でトップ15の中に入る。同州は北部、中央部、南部の3地域に分かれ、それぞれユニークな観光素材がある。北部大西洋岸のセント・オーガスティンはアメリカ最古の都市として知られ、スペイン統治時代の建物が残る。中央部にはテーマパークで人気のオーランドやケネディ宇宙センター、南部にはマイアミやフォートローダーデール、キューエストなどがある。ショッピングやグルメも魅力だ。



ティム・デクレアー、インターナショナルマーケティングディレクター



# 今も変わらない創業100周年の信頼と実績

## ニーズに応えるサービスで便利で快適なドライブをサポート



ハーツレンタカーは1918年に世界初のレンタカー会社として創業、今年創業100周年を迎えた。「常にお客様に最適なサービスを」という企業理念のもと、ビジネス、レジャー双方のマーケットで信頼と実績を積み上げてきた。その評価は今でも変わらず、世界中の旅行者から旅の足として選ばれている。本国アメリカでも、広範な営業所ネットワークを展開し、ニーズに合わせた新しいサービスや安心のサポートも提供。ユーザーの満足度を高めている。

### 人気の「ULTIMATE CHOICE®」、 好みの車でドライブがさらに楽しく

ハーツの新サービス「ULTIMATE CHOICE®」が好評だ。これは、ハーツ Goldプラス・リワーズ会員だけでなくすべての旅行者が、予約したフルサイズ、ミッドサイズ、コンパクトサイズのカテゴリーの中から自身の好きな車を選べるというもの。チェックイン後に指定された駐車場番号を探すこれまでの方法ではなく、実際に運転席に座って車を選ぶことができることから、自分のお気に入りの一台でドライブ旅行を楽しめるようになった。レジャー、ビジネスどちらの旅行者にも喜ばれそうだ。



この新サービス提供に合わせて契約手続きも簡素化した。空港到着後ハーツのカウンターに立ち寄り、予約を確認したのち、そのまま駐車エリアに移動。車を選んだら、出庫ゲートに向い、そこに設置されたブースで契約書を受け取るだけ。また、追加料金でプレミアムアップグレードの車を選ぶことも可能だ。

このサービスは全米の主要空港営業所で提供されており、現在のところ日本人旅行者の利用の多いロサンゼルス、サンフランシスコ、ダラス/フォートワース、ラスベガス、オーランド、シアトル、ニューアークなどを含め58ヶ所で利用が可能(2018年第2四半期現在)。今後、対象となる営業所はさらに増えていく予定だ。

### 無料で即時発行の 運転免許証翻訳サービス、 申込みも簡単

ハーツでは、アメリカでより便利にレンタカーを利用してもらうサービスとして、運転免許証翻訳フォーム(HDLT)を提供している。この翻訳フォームと日本の運転免許証をハーツの営業所で提示すれば、国際運転免許証なしでも車をレンタルすることができる。

発行手続きは簡単。ハーツ・ホームページのHDLT専用ページにある入力フォームで申し込む。必要事項を記入し、運転免許証をスキャンして送信すれば、即時発行。有効期間は90日間、しかも無料。国際運転免許証の取得には、各都道府県警察署の運転免許課や運転免許センターなどに出向く必要があり、たとえば東京都の場合2,350円の発行手数料もかかることを考えれば、とてもお得で便利なサービスだ。

レンタカー各社とも同様のサービスを提供しているが、無料かつオンラインでの即時発行を行っているのはハーツだけだ。ただ、このHDLTは、法的な身分証明証にはならないため、ドライブ時は日本の運転免許証を常に携帯する必要がある。

### 充実の営業所ネットワークと サポートで安心ドライブ

創業100周年を迎えたハーツは、その営業所ネットワークも充実している。世界では145カ国1万ヶ所、アメリカでは実に5,000ヶ所以上の営業所を構え、ユーザーの利

便性に応じている。日本から直行便が飛んでいる空港にはすべて営業所があるため、日本人旅行者にとっても便利。空港で車を借りて、滞在期間中の移動手段として利用し、帰国日に空港で返却する使い方をする旅行者は多い。

このほか、主要都市の中心部やホテル内にも営業所を構えているため、近郊への移動、街乗り、都市を基点とした周遊など目的に合わせた利用ができるのも旅行者にとってはうれしい。たとえば、滞在期間のうち、数日あるいは1日だけレンタカー

を借りて、自由に柔軟に自分なりの旅を楽しむことも可能になる。

また、ドライブ中のサポート体制が整っている点も安心だ。アメリカでは、ドライバーに対して日本語オペレーターにつながる「日本語アシスタント・ダイヤル」を提供。さらに、トールフリー(無料)の「緊急ロードサービス」では、「ジャパニーズ・プリース」の一言だけで、日本語オペレーターに繋いでくれる。万が一の場合に、言葉の心配なく対応してくれるサービスは日本人ドライバーにとって心強いはずだ。

### ADでレンタカー体験を

ハーツでは旅行業界関係者向けにお得なエージェント・ディスカウント料金(AD)を用意している。同社では、まずは業界関係者にレンタカーを借りてもらい、その楽しさや便利さを体験して欲しいとこのディスカウント・サービスを勧めている。対象エリアは世界145カ国、8,500ヶ所の営業所。車のクラスと優待料金は利用営業所によって異なる。

問い合わせは

ハーツレンタカー予約センターまで  
**0120-489882** (9:00~18:00 土日祝祭日除く)

# Since 1918

ご存じですか？

ハーツは 1918 年、ウォルター・ヤコブによって  
世界初のレンタカー会社として創業しました。

以来「常にお客様に最適なサービスを」という  
企業理念のもと

常に新しい時代のニーズを的確に捉え  
レンタカーの未来を創造してきました。

**海外旅行のレンタカーならハーツにお任せ下さい。**

# Hertz®

日本からのご予約・お問い合わせは

0120-489882 9:00~18:00/土日祝祭日除く

[www.hertz.com](http://www.hertz.com)



# 観光都市としてますますパワーアップするLA

## ファミリーにも人気のエンターテインメントシティー

最先端トレンドを発信し続けているロサンゼルス(LA)。いつ訪れても刺激的で新しい発見に満ち溢れている。トレンドに敏感な若者だけでなく、ファミリーでも楽しめるエンターテインメントも盛りだくさん。最近ではアナハイム・エンゼルスに大谷翔平選手が入団したことから、前田健太投手が所属するロサンゼルス・ドジャースと合わせて、MLBも男性を中心に訴求力の高い観光素材として注目されている。また、泊まりたくなる個性的なホテルも続々とオープン。パッケージでも、FITにも、選ばれる都市型観光デスティネーションとしてLAの魅力はますますパワーアップしている。



ロサンゼルス観光局 日本語ウェブサイト [jp.discoverlosangeles.com](http://jp.discoverlosangeles.com)

## ファミリーに人気のアトラクションもグレードアップ

多彩な楽しみ方が魅力のLAは、ファミリーデスティネーションとしての人気も高い。テーマパークから、博物館、レストラン、ショッピングモールまで。母娘、3世代、子供連れなどさまざまなファミリー層に受け入れられるエンターテインメントが揃っている。

### ユニバーサル・スタジオ・ハリウッド(USH)

ドリームワークスのアニメーションを題材にした新アトラクションが登場する。今年6月には、大ヒットシリーズ映画『カンフーパンダ』をモチーフにしたマルチ感覚アトラクションがオープン。最新プロジェクションマッピングとLED効果を組み合わせ、冒険いっぱいストーリーが展開されている。また、2018年には、サンリオのアイコンキャラクター『ハローキティ』もUSHに仲間入り。さらに、来年には映画の公開に合わせて現在の『ジュラシック・パーク』が『ジュラシック・ワールド』に変更される。



Kung Fu Panda ©2018 DreamWorks Animation LLC. All Rights Reserved. ©2018 Universal Studios. All Rights Reserved.

### OUEスカイスペースL.A.

2016年6月末にダウンタウンの「U.S.バンクタワー」にグランドオープンした「OUEスカイスペースL.A.」は、カリフォルニアで最も高いオープンエアテラスを備えた展望施設。地上300m、ビルの外壁に設置されたガラス張りの滑り台「スカイスライド」はスリル満点だ。オープンテラスでは、「サンライズヨガ」のプログラムも提供。さらに、SNS映えスポットとして人気の「エンジェルウイング」プロジェクトもある。



©OUE Skyspace LA



photo by @wenwensong, Instagram.

### カリフォルニア・サイエンス・センター

アメリカで実物のスペースシャトルが見られるのは4ヶ所だけ。そのひとつが「カリフォルニア・サイエンス・センター」で「エンデバー」が展示されている。場所は、ロサンゼルス・メモリアル・コロシアムとロサンゼルス自然史博物館に隣接するエクスポジション・パーク。サイエンス・センターの入場は無料だが、エンデバー見学には2米ドルが必要になる。



photo by @wenwensong, Instagram.

### ウェストフィールド・センチュリー・シティ

リノベーションされたばかりの大型ショッピングモール。フードストローム、ブルーミングデールズ、メイシーズといった百貨店を中心に200店舗が入る。2017年11月には、イタリア高級食材の専門店「Eataly」もオープンした。エンターテインメントやSNS映えスポットが多いのも特徴で、ファミリーや女子旅にはうれしい場所だ。

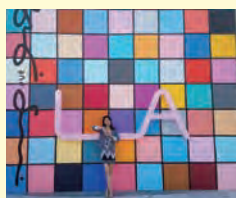


photo by @wenwensong, Instagram.

### ピーターソン自動車博物館

ミラクル・マイルの一角にある「ピーターソン自動車博物館」は、歴代の名車がずらりと並ぶ自動車大国アメリカを象徴する博物館だ。クラシックカーだけでなく、『バットマン』のバットモービル、『007/ゴールドフィンガー』で使用されたアストンマーティン「DB5」などフォトジェニックな車が展示。愛好家だけでなく、ファミリーでも楽しめる場所だ。



photo by @wenwensong, Instagram.

### 今注目を集めるSNS人気スポット



photo by @wenwensong, Instagram.

言わずと知れたLAを代表するビーチ。そのボードウォークの入口にかかる「VENICE」サインはアイコン的な存在で、特に夕暮れ時はフォトジェニック。ベニスビーチサインから徒歩10分のアポックニー通りもSNS映えスポットが多く非常に人気がある。



photo by @wenwensong, Instagram.



photo by @wenwensong, Instagram.

グランドセントラルマーケットの前から出る世界最短の鉄道。レトロでカワイイ車両が人気だ。



photo by @wenwensong, Instagram.

地元の人も旅行者にも人気の夜景スポット。グリフィスパークは、「ラ・ラ・ランド」などさまざまなハリウッド映画のロケ地になっている。



photo by @wenwensong, Instagram.

オリジナルパイが人気の「ザ・パイ・ホール」前の歩道をはじめ、アート・ディストリクトのあちこちにある。散策しながら見つけるのもおもしろい。

### メトロ・バイク・シェア

LAメトロの主要駅では昨年、自転車のレンタルサービス「Metro Bike Share」が提供されている。現在提供されているのは、ダウンタウン、サンタモニカ、パサデナ、ベニスの各地域。メトロと自転車を上手に利用して、車が無くても自由にLAの街を楽しむことができる。



©Metro Bike Share

## 泊まりたくなる個性的なホテルも続々登場

LAではホテルの新規オープンやリノベーションによる再オープンが続いている。ファミリーに最適なスイートタイプも多い。いずれも、観光の拠点として、あるいは都市型のホテルライフが楽しめる施設として、オープン直後から高い評価を受けている。

### LAX

#### H Hotel

ロサンゼルス国際空港(LAX)の東側にあるヒルトン・キュリオ・コレクションのホテル。オフィスビルを改装して2017年9月にオープンしたばかりだ。客室数は168室で、ルーフトップデッキから太平洋を一望することができる。ベニスビーチ、サンタモニカ、ビバリーヒルズ、ハリウッドにも近いロケーションは観光の拠点としても最適だ。



©H Hotel

#### Homewood Suites

H Hotelと同じ敷地内に昨年9月にオープンしたヒルトン系列のホテル。全122室はスイートタイプ。ベッドルームのほか、電子レンジや冷蔵庫付きのフルキッチン、リビングルーム、ワーキングデスクなども備え、暮らすように宿泊する環境が整っている。



©Homewood Suites

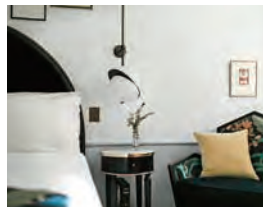
### ダウンタウン

#### LEVEL Furnished Living



©LEVEL Furnished Living

#### NoMad Hotel



©Benoit Linero and Sydel Group

1923年に建てられた旧イタリア銀行の建物を改装し、今年1月にオープンしたばかりの12階建てホテル。客室数は250室。ルーフトッププールも備える。

#### Hotel Figueroa

リノベーションを完了し、今年2月にスペインをモチーフにしたコンテンポラリーホテルとして再オープンした。全57室はスイートタイプ。各部屋には新しい防音窓も設置され、静かに過ごせる環境を整えた。レストラン、バー、ルーフトップガーデンも備えた大人向けのホテルだ。



©Hotel Figueroa



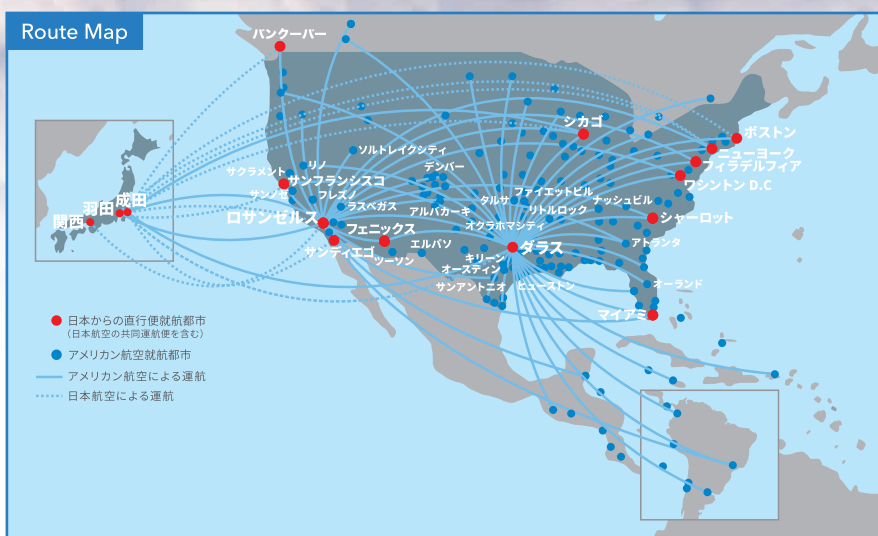
アメリカン航空 American Airlines

アメリカ特集 2018

# LAとダラスから全米各地へ ワンランク上のサービスで

American  
AirlinesJAPAN  
AIRLINES

## Network



## 日本からLAへ毎日4便、ダラスへ毎日3便 充実のアメリカ・メキシコ・中南米・カリブ諸国ネットワーク

アメリカン航空は、羽田と成田からロサンゼルスへそれぞれ毎日1便、さらに日本航空との共同運航便で、成田と関西からそれぞれ毎日1便、合計毎日4便のフライトを運航する。またダラスへは成田から毎日2便、日本航空との共同運航便を合わせると毎日3便と、数多くのフライトを運航しているので、利用しやすい。

西海岸のロサンゼルスと、中南部ダラスは、どちらもアメリカン航空のハブ空港。ロサンゼルスとダラスを拠点に、全米各地、さらにメキシコを含む中南米やカリブ諸国へもスムーズにアクセスできるのが同社の強みだ。ロサンゼルスからは1日約200便を運航。

なかでもニューヨークへは1日13便、西海岸と東海岸を結ぶフライトでファーストクラスを含む3クラスで運航するのは同社だけ。また、アメリカン航空最大のハブ空港であるダラスからは、1日約700便を運航、圧倒的なネットワークを誇る。

日本航空との共同事業により、行きはアメリカン航空、帰りは日本航空と行った選択が可能となり、スケジュールに応じたフライトの選択肢がより広がり、ますます便利になった。ほかにも予約や空港、機内食を含めた機内でのサービス、運賃やマイルに至るまで、シームレスなサービスで、共同事業は空の旅により多くのメリットをもたらしている。

## Service

## 太平洋路線でワンランク上のプレミアムエコノミー体験を

アメリカン航空 プレミアムエコノミー



メインキャビンより座席の前後間隔が14cm広く、広々とした足回りスペースと、幅広い革張りシートゆっぺたりの空間。機内エンターテインメントは、11インチの個人モニターと、プレミアムエコノミー専用のノイズ低減ヘッドホンで楽しむことができる。事前予約可能なグレードアップした食事と飲み物、さらに専用のアメニティキットや優先チェックイン、優先搭乗、優先手荷物タグなど、ワンランク上の上質な快適さと、サービスをぜひ体験したい。



JAL プレミアムエコノミークラス〈JAL SKY PREMIUM〉\*



機能性、プライバシー性に配慮したシートは、前席の背もたれが倒れてこない構造で、さらにゆとりのある上質な居住空間を実現。座席の前後間隔を約10cm拡大(現行座席比)し、座席スライド幅も広がり、プレミアムエコノミークラスの新しいスタンダードを提供する。

\* 路線によってシート仕様が異なります。

## 東京芝大門「くろぎ」黒木シェフの オリジナル機内食を提供

日本発アメリカ行きのFlagship™ビジネスでは、日本航空の日本発ビジネスクラスの和食メニューも手がける日本料理の名店、東京芝大門「くろぎ」の黒木純シェフが考案、監修したオリジナル機内食をサービス。7月からは夏メニューとして、冷凍ではないチルドの「生キャビア」を取り入れるなど、こだわりの和食が機内で味わえる。





American Airlines



# PREMIUM Economy

もっと広く、  
もっと快適に。

広々としたシートとおいしい食事でゆっくり  
お過ごしください。アメリカへのフライトの賢い選択。  
アメリカン航空のプレミアムエコノミー  
[aa.com/PremiumEconomyJP](http://aa.com/PremiumEconomyJP)



アメリカン航空、American Airlines、Flagship、尾翼デザイン及びフライトシンボルは、アメリカン航空が所有する登録商標です。ワンワールドアライアンスの登録商標です。© 2018 American Airlines, Inc. All rights reserved.



JAPAN AIRLINES

日本航空とのパートナーシップにより、太平洋路線でひとつ上のプレミアムエコノミー体験を